



白河二中だより

NO. 31
2024. 11. 29
白河市立白河第二中学校
発行責任者 小野 聡

郷土白河を考える

26日(火)に、白河市教育委員会教育長の芳賀祐司様、教育部長の佐藤伸様をお迎えし、今年度の「しらかわ未来フォーラム」を開催しました。

3年生は、社会科の授業において、現在の白河市の状況を把握し、より魅力的な白河市にしておくために必要な施策を考えました。全員が模擬選挙の中で発表し、選ばれた代表者5名がフォーラムに臨み、それぞれの思い、公約を次のように述べました。

○梅津百花さんは「需要の減っているサービスを削減し、人口増加と地域の活性化を目指す」とし、「高齢者健康計画」や「収入を増やすための企業誘致、大学などの学校誘致」を訴えました。

○武藤美琉さんは「消滅することのない活発な都市にするために働きます!」とし、「子育て世帯への支援の充実」「白河市の魅力をアピールするイベント開催による観光客の誘客、大学や専門学校の設立」を訴えました。



○永島和穂さんは、「白河市の伝統や歴史、ブランドをPRするためにSNSを積極的に活用する」とし、自家用車のTVコマーシャルで映し出された白河駅などの「歴史的な建造物を残す」また、「若者向けの商品開発」を進めたいと発表しました。

○鈴木芭奈さんは「『Rojima (ロジマ)』須賀川市の路地から広がるマーケット」を実際に経験し、白河市にも同様のマーケットを展開して、「住民同士の世代を超えた交流」ができ、「白河市の魅

力が伝わるきっかけに」していきたいと述べました。

○岩本真波さんは様々なデータを根拠とし、「子育て世帯への支援、大学進学への給付金の支給」、また、「新白河駅前の活性化」のために、ボルダリング、スケートパーク、バスケットリングの設置などの必要性を訴えました。



教育長さんからは、それぞれの公約を受け、「実現は難しいかもしれないが、考えることで可能性が広がっていく」こと、今回の未来フォーラムによってさらに育まれた白河への郷土愛をこれからも大切にしてほしい、とのお話をいただきました。

今回は、進行やフォーラムの意義、まとめ等を社会科教科員が立派に行うなど、生徒主体の運営がなされことも特筆すべき点でした。

栄光をたたえて

【東西しらかわ中学校書道展】

「容州賞」遠藤 愛心

「特選」伊藤 彩

「金賞」岩本 真波

「入選」小林 愛奈

諸橋 紗和

富塚 聖那

青木 溢心

薄井 美侑

佐藤 ひなた

蒲生 莉来

太田 彩水

黒須 絢香

「書研賞」田中 紗英

鈴木 美怜

永島 和穂

松下 夢彩

島村 杏

金田 心優

鈴木 結子

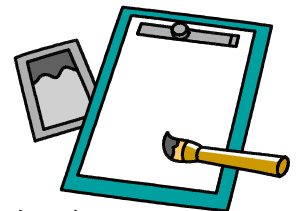
小菅 新佳

津久井 天愛

平井 奏絵

阿部 叶瑠

緑川 寧桜



【県地域安全作文】

○優秀 早津 瑞希

